

限界セグメント

Ultimate Segment

衣笠 善博[1]; 高橋 治郎[2]

Yoshihiro Kinugasa[1]; Jiro Takahashi[2]

[1] 東工大・総合理工学研究科; [2] 愛媛大・教育・地学

[1] Tokyo Inst. of Technology; [2] Dept.Geol.,Fac.Educ.,Ehime Univ

長大な活断層は、いくつかのセグメントに別れて活動することから、地形学、地質学、地震学、地震工学の分野など様々な分野でセグメンテーションに関する議論が行われている。一方、それらの分野ごとに、セグメンテーションに係わる用語の定義が必ずしも明確でなく、そのための議論の混乱が生じている。

本セッションの冒頭に当たり、セグメンテーションの意義と、セグメンテーションに係わる用語の整理を試みる。

セグメンテーションの目的の一つは地震動評価に用いる活断層の幾何学的形状の決定であり、限界的な地震動の評価にあたっては限界的なセグメント形状の認識が必要となる。この限界的なセグメントを‘限界セグメント’と呼び、南米チリ沖の地震活動域を例に考察する。

南米チリ沖の地震活動域は、Nazuca Plate 内の Challenger Fracture Zone, Mocha Fracture Zone 等沈み込むプレートの主要な構造を超えて広がることはない。